

脊髄癆における電気生理学的異常と MRI の比較研究に関する後ろ向き研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026 年 6 月 4 日 ～ 2030 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 脊髄癆の診断における脛骨神経 SEP の特徴と MRI 所見との比較に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 脊髄癆(tabes dorsalis)は、梅毒感染により神経が障害される病気で、しびれ、ふらつき、歩行の不安定などを生じます。しかし、脊髄の MRI 検査では異常が分かりにくい場合があります。本研究では、脊髄癆の患者さんに対して診療の一環として行われた電気生理学的検査の一つである 脛骨神経体性感覚誘発電位(SEP)と 画像検査である脊髄 MRI を比較し、どのような特徴があるかを明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 脊髄癆の診断は MRI による画像評価だけでは診断が難しい場合があります。一方、SEP は神経の働きを調べる検査で、神経の機能的な障害を詳しく捉えられることができます。これにより画像では診断できない脊髄癆を診断することが可能となり、適切な診断・治療につながりやすくなることが期待されます。

〔対象・研究方法〕 研究は後方視的(過去の診療記録を用いる)研究 として行われます。以下の条件を満たす患者さんの診療データを使用します。①2008 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の間に帝京大学医学部附属病院脳神経内科で脊髄癆と診断された方、②診療の一環として 脛骨神経 SEP と 脊髄 MRI が行われている方、③診療録に必要な情報(症状・診察・検査結果など)が記録されている方。使用する情報は、診療の中で既に得られている記録(神経学的所見、SEP、MRI 画像など)であり、新たな検査・負担は生じません。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院 医学部脳神経内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕収集したデータは、個人毎に加工されたデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)事務局に提出します。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 北國圭一 職名 講師
研究分担者:氏名 畑中裕己 職名 病院教授
所属:帝京大学医学部脳神経内科学講座
住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表)